

令和4年度 学校評価実施報告書

学校番号 24

学校名 千葉県立津田沼高等学校

課程名 全日制

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>① 総合的探究の時間を核に津田沼グラデュエーションポリシー（8つの力の育成）について、生徒に意識して授業や行事で取組ませ、生徒の自己評価、振り返りの結果では、身についた力が段階的に増加した。</p> <p>② 学校ホームページを見やすく整理し、様々な内容の更新を行った。また、コロナ対策緩和に伴い学校行事や部活動の活動が盛んになり活動報告が増えたため月2回以上の更新回数を達成した。</p> <p>③ 地域中学校との交流会や特別支援学校での読み聞かせや各部活動の地域イベントへの参加、1000か所ミニ集会での地域住民との交流など地域連携を推進することができた。</p> <p>④ 学校評価アンケートで業務改善に関する結果は低下しているが、業務の効率化に向けて、新たな組織を編成しICT化に取り組んでいる。</p>	<p>① 総合的な探究の時間だけでなく、様々な教育活動の場で、津田沼グラデュエーションの8つの力を意識させて取り組ませ、3年間で段階的に8つの力を身につけるカリキュラムをつくる。</p> <p>② 生徒、保護者ともにホームページに関する学校評価アンケート結果は上昇し、情報掲載件数も増加したが、保護者からの情報提供の要望は更に強く、より一層の情報提供を行う必要がある。</p> <p>③ 地域連携から得た、生徒の教育的効果は大きく意識改革につながった。更に様々な交流を体験させ、生徒、職員の地域連携の意識改革をおこなう。</p> <p>④ 若手チームがICT活用に取り組み、業務の効率化、ペーパーレス化等を検討させると同時に各職員の意識改革を促す。</p>
学習指導	<p>① 学校評価アンケートで生徒は授業について80%以上が適切と考えており、職員の98%がわかりやすい授業に取り組んでいる。</p> <p>② 図書館を利用した授業を推進し、本を利用した課題解決型学習を実施した。またビブリオバトルを実施し読書活動を推進した。</p> <p>③ BYOD（スマホ）の環境が整い、ICTを活用した研究授業を実施し授業力向上を行った。更にいつでも職員同士が授業観察しあう環境を作り授業改善を推進した。</p> <p>④ 総合的な探究の時間検討委員会が中心となり計画的に授業を展開し、津田沼GPの育成に取り組んだ。1、2学期にアンケート実施し身についた力を自己分析させた。</p>	<p>① 生徒、保護者の学習意欲は高く、職員の意識も高いことから今後も授業改善を図り学力向上をめざす。</p> <p>② 今後も様々な授業で図書館を利用し読書活動を推進する。ビブリオバトルは教育効果が非常に高く今後も実施する。</p> <p>③ ICTを活用した授業は全教科で行われ、学校のタブレットを使用した授業も実施しているが更にタブレットを利用した授業を推進する。</p> <p>④ アンケート結果から津田沼GP（8つの力）の育成について全ての項目では成果が見られた。より計画的に探究活動を実施させ段階的に8つの力の育成に取り組む。</p>
生徒指導	<p>① 毎朝の職員の挨拶指導、登校指導により遅刻者が減少した。</p> <p>② 生徒の個人面談、保護者面談の実施の他、外部機関等との連携により教育相談体制を強化し、個々の生徒理解に努めた。</p> <p>③ 情報モラルや心の教育を総合的探究の時間や道徳に関する授業で実施し、うつ病等のメンタルヘルスに関する職員研修を実施した。</p> <p>④ 登校指導を実施し、自転車マナーに関する交通安全指導を定期的実施した。</p>	<p>① 登校マナーと共に挨拶についても毎朝職員が正門と昇降口に立って指導する。</p> <p>② 保護者面談週間の実施に加え、教育相談室を整備し生徒が相談しやすい環境を整える。</p> <p>③ 人権、情報モラル等を考える機会を様々な授業を通じて実施し、生徒、職員共に高い人権意識を醸成する。</p> <p>④ PTAの参加も促し自転車マナーを含めた登校指導を定期的実施する。</p>
キャリア教育	<p>① コロナ前に実施していた様々な人材を活用した進路ガイダンスを各学年で実施した。</p> <p>② 職場体験やボランティア活動にはまだコロナによる制限があった。</p> <p>③ 進路実現に向けて主体的に学習に取り組む環境整備としてNIE事業で新聞を各教室に毎日配達設置や、図書館に関連図書閲覧コーナーの整備、進路に関する情報のCLASSIによる配信を実施した。</p>	<p>① 計画的に多くの講師によるガイダンスの実施の他、ICTを活用して生徒の様々な可能性の伸長を促す。</p> <p>② コロナ前に実施してきた地域連携活動やボランティア、職場体験などを復活させ様々な体験学習を実施する。</p> <p>③ ICTを活用して、課外の時間も効率的に情報収集できるよう工夫するとともに校内のキャリア教育体制を強化する。</p>

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善策)
学校経営	① 津田沼G Pの実現のための重点目標がわかりやすく取り組みが見て取れた。 ② 音楽系の部活動による校外での発表等は素晴らしく、魅力の多い学校だがアピールの仕方と量が不足している。ホームページの活用方法の改善により地域から愛される学校としてPRして欲しい。 ③ 学校改善の努力が見られる。 ④ 津田沼高校は生徒・保護者・地域及び中学校に求められ愛されていると分かった。 ⑤ 地域に信頼され小中学生の目標となる姿が見られた。	① 津田沼G Pの育成に向けて、各学年で工夫し様々な教育活動に取り組む。その結果として生徒一人一人の津田沼G Pの自己評価でそれぞれの項目の肯定的評価の割合を7割以上とする。 ② 学校評価では肯定評価が増加しているが、ホームページの内容を更に改善し、組織的かつ継続的に情報発信できる体制を構築し、より発信力を高める。 ③ 若手職員を中心とした組織を作りICTの活用、ペーパーレス化の業務の効率化を推進しチームワークの良い健全な職員集団とする。 ④ ⑤総合的探究の時間や学校行事、部活動等で様々な異校種や地域交流を計画実施し生徒・職員の地域連携の意識改革を図る。
学習指導	① 学校教育の第一義は「確かな学力」を育むことと考える。津田沼高校独自の教育を推進し、主体的に考える生徒を育成してほしい。 ② 生徒が課題に真剣に取り組み落ち着いて、教員も熱心で工夫した授業をしているのが印象的でICTの活用も評価できる。 ③ 教科内での授業観察・講評会を頻回に実施し、すべての授業において生徒による授業評価を実施しカリキュラム・マネジメントの観点から不断の授業改善を行ってほしい。 ④ 読書習慣を身につけさせてほしい	① 若手、ベテラン職員間での授業観察を推進して、主体性のある生徒の育成に適した授業改善を実施する。 ② 1年生ではBYODでタブレットを活用し、分かりやすい授業と学力向上につなげる。 ③ 教科内で授業内容、指導方法、評価方法等をよく検討し、外部支援ソフトの活用などで家庭学習等での主体的な学びについても工夫する。 ④ NIE事業による新聞の活用、図書委員会を中心としたビブリオバトルや読み聞かせなどの実施の他、授業の探究活動での図書館利用を推進し、生徒の読書時間の増加を図る。
生徒指導	① 毎朝登校時の校門でのあいさつ、服装チェック、時間厳守などの成果がアンケート結果の良い数字に示されている。明るき大きな声で挨拶してほしい。 ② 生徒指導の結果、生徒の様子で「人間力」が育つと思う。今後は生徒会が中心となり校則をより良くする活動を期待する。 ③ 登下校中、挨拶と交通ルールを守る生徒の姿はすがすがしい。地域や学校周辺の清掃にたくさん参加しており立派に思う。 ④ 教育相談体制も位置付けられ機能していると感じた。	① 教員による毎朝登校時の校門、昇降口での挨拶、声掛けを次年度も継続実施して遅刻者数ゼロを目指す。更に積極的に職員が挨拶、声掛けをして、大きな声で挨拶できる生徒を指導、育成する。 ② 生徒会活動や校則や交通マナーなどについて生徒が意見交換する機会をつくり、更に学校行事や奉仕活動などで主体的で協働的な体験活動を通じて、人間力を育成する。 ③ 次年度からスクールカウンセラーの配置校となり、新たに教育相談室を設置するとともに組織的に対応する教育相談体制強化を行う。
キャリア教育	① 3年の出口指導に特化することなく、入学当初から段階的なキャリア教育が求められる。学校評価結果の学年別の数値の差を丁寧に分析し計画的・継続的な取り組みをお願いしたい。 ② 津田沼G Pのさらなる活用を望む	① ICTのタブレットや外部学習支援ソフトのスタディサプリやクラッシィ等を活用して学年ごとに個々の興味関心を高め、進路ガイダンスや大学模擬授業等と絡めて自ら進路について主体的に探究する姿勢を養う。 ② 津田沼G Pの育成を意識して進路指導部、総合的探究の時間検討委員会等が連携して年間計画を立て実施する。